

11月10日

しろい環境塾が旧平塚分校隣で「森の音楽会」

NPO法人しろい環境塾増木豊理事長が「みんなどて平塚の里に行こう！」をテーマに、11月1日から11日にかけて音楽会、写真展、絵画展、秘密基地づくり、里山ウォッチングなどを行う。しろい環境塾の活動内容を多く市民に知ってもらい、市民の交流の場にもしようというもの。

卒業生のホリが講演

今年で創立30周年を迎えた白井市立第三小学校（根336・15 近藤一男校長）が11月17日、同校体育館で記念式典を開催する。記念式典の後、同校を卒業した物まねタレント、ホリ（本名「堀裕人さん」）が講演を行う。同校は昭和53年（1978）4月1日、白井町立白井第一小学校から分離して開校、平成13年の市制施行で白井市立白井第三小学校と改称された。2年前には、文部科学

ホスト・ファシリティー募集

国際交流協会 白井国際交流協会は11月、中南米、アフリカ、大洋州、アジアから来日中のJICA（国際協力機構）研修生を招いてホ

アフリカ米の稲刈りと脱穀

NPO法人「日本ブルキナファソ友好協会」の山倫政理事長は10月31日、白井第一小学校隣の

大盛況だった稲垣次郎ライブ

白井音楽倶楽部（松川輝雄代表）が10月14日に主催した「稲垣次郎ライブ」には50人以上が詰め

白井市芸術振興会「秋の発表会」

白井市芸術振興会（馬場崎隆二会長）の「秋の発表会」が11月3日（土）白井市文化会館大ホールで開かれる。

街かど落語会 春風亭柳朝の会

第23回白井街かど落語会（主催「白井落語会」協力「NISハッピー倶楽部」）が12月2日（日）に開催される。会場は、御食事処「むらさき」（西

しっかり施工 安心保証
地域の仲間をつくった
しろいリフォーム
白井市バリアフリー住環境相談会理事
電話047(492)8009

博人館



亀川清人さん（ペン画家）
「家内のお陰で、二人三脚でやってきた夫婦なんです」
借金で夜逃げした居酒屋を引き継ぎ、4年ほど居酒屋を経営した。常連客と、20世紀の忘れ物」をキーワードに語り合う。それがきっかけで、「三水会」を仲間とつくる。毎月水曜日、さまざまな分野で活躍する人を招いて話を聞き、話し合う会だ。喜んで毎月の会場も提供した。

今年4月まで市議会議員を務め、文教委員として活躍した亀川清人さんは、ペン画家としての知名度も高い。11月末から約2週間にわたりペン画展を開き、この3年半の間に描き貯めた作品40点を展示する。

絵は長～い友達

併合下の京城（ソウル）で生まれた。現地の日本人学校はスバル方式で、零下10度になるまでは校庭で朝礼です。外の寒さは半端じゃなかった。けど、家の中はずいぶん暖かい。床下暖房のオン・オフで、真冬でもシャツ一枚で過ごせましたよ。だから、終戦を機に両親の郷里・鹿児島に引き上げ、来たときは、正直、寒くて震えちゃいました。隙間風は吹くし、ゲタ履きだし……」
鹿兒島弁にも参った。3年後、「一生見飽きない顔だ」と、一目惚れした満里子さんと結婚。昭和42年に退官し、メーカーの下請工場を経営した。順調に業績が伸びたので、2千万円をかけて機械口ポットを導入する。30年前のことだ。小さな町工場が最新式の機械を導入したというので、大手メーカーからも視察に来たという。フル稼働の日が続いたので、返済の目途がつかず、借入して迷わず2台目を購入した。「さあ一つ」というときにパブルが崩壊。一気に注文が減り、工場は存続の危機を迎える。妻の満里子さんが営業に飛び回り、仕事を見つけてきてくれた。家内のお陰で、二人三脚でやってきた夫婦なんです」



公正純治の箱

日本弁護士連合会所属の弁護士から要望があり、先の9月議会に「割引

続発する高齢者のクレジット被害に処するため、9月議事に意見書を提出しました

改正が見込まれていますが、ここ数年、クレジット被害を被る人が少なくありません。便利ですが、危険な道具でもあるというのを忘れない

改正が見込まれていますが、ここ数年、クレジット被害を被る人が少なくありません。便利ですが、危険な道具でもあるというのを忘れない

契約に立ち会いませぬ。だから、販売業者に

意見書全文は、私のホームページで公開していますので、幸正じゅんじで検索してみてください。

亀川さんの画は、すべて独学だ。「幼い頃、絵を描いて親や周りの大人たちに見せると、清ちゃん、上手だねーって褒められた。嬉しいから、また描いて……子供は褒めてやらなきゃいけない」と、亀川さんは嬉しそうに顔をほころばせている。

亀川清人ペン画展

11月27日～12月8日 「ギャラリー芙蓉」
我孫子市布佐1-30-1 TEL(04)7106-1369

亀川さんは昭和9年（1934）11月、日韓併合下の京城（ソウル）で生まれた。現地の日本人学校はスバル方式で、零下10度になるまでは校庭で朝礼です。外の寒さは半端じゃなかった。けど、家の中はずいぶん暖かい。床下暖房のオン・オフで、真冬でもシャツ一枚で過ごせましたよ。だから、終戦を機に両親の郷里・鹿児島に引き上げ、来たときは、正直、寒くて震えちゃいました。隙間風は吹くし、ゲタ履きだし……」
鹿兒島弁にも参った。3年後、「一生見飽きない顔だ」と、一目惚れした満里子さんと結婚。昭和42年に退官し、メーカーの下請工場を経営した。順調に業績が伸びたので、2千万円をかけて機械口ポットを導入する。30年前のことだ。小さな町工場が最新式の機械を導入したというので、大手メーカーからも視察に来たという。フル稼働の日が続いたので、返済の目途がつかず、借入して迷わず2台目を購入した。「さあ一つ」というときにパブルが崩壊。一気に注文が減り、工場は存続の危機を迎える。妻の満里子さんが営業に飛び回り、仕事を見つけてきてくれた。家内のお陰で、二人三脚でやってきた夫婦なんです」